

21世紀COEプログラム 平成16年度採択拠点中間評価結果

機関名	東北大学	拠点番号	K04
申請分野	K<革新的な学術分野>		
拠点プログラム名称 (英訳名)	医薬開発統括学術分野創生と人材育成拠点 Comprehensive Research and Education Center for Planning of Drug Development and Clinical Evaluation		
研究分野及びキーワード	<研究分野: 薬学> (臨床開発) (臨床試験) (大規模介入) (創薬) (世界戦略)		
専攻等名	薬学研究科(医療薬科学専攻、生命薬学専攻、創薬化学専攻)、病院、医学系研究科医科学専攻、歯学研究科歯科学専攻、医学部保健学科、経済学研究科経済経営学専攻、文学研究科文化科学専攻、加齢医学研究所		
事業推進担当者	(拠点リーダー名) 今井 潤 他23名		

◇拠点形成の目的、必要性・重要性等：大学からの報告書（平成18年4月現在）を抜粋

<本拠点がカバーする学問分野について>	<p>医薬開発・臨床研究遂行のための人材育成を目指す医療薬学、創薬科学、臨床医学、基礎医学、医療関連学、社会科学を包括・融合した新しい学問分野である。</p>
<本拠点の目的>	<p>本拠点は本学内に設置された医薬開発構想寄附講座を中核に据え、既に世界的に高い評価を得ている基盤研究を基礎に、薬・医・歯学共通の課題である医薬開発・臨床研究のための人材育成を目的に、教育センターの構築とそのための新しい学問分野の構築を目的としている。</p>
<計画・当初目的に対する進捗状況等>	<p>本拠点は、既存の世界的に評価の高い基盤研究に拠点メンバーが各自のテーマで参画し、その研究成果をもとに、科学的臨床研究、医薬開発のための実践者、教育者、研究者を育成することを第一の目的としている。基盤研究を核として拠点メンバーの有機的結合による研究は計画に従い遂行され、優れた成果を挙げている。この基盤研究を実践教育の場とし、COE-教育センターが構築され、COE-Master of Clinical Science (MCS)教育コースを開設し、医、薬、歯、保健、看護、栄養、臨床検査など70人の多様な人材教育が開始され、20人にCOE-MCSを認定した。尚本COE-MCSコースは、薬剤師認定制度認証機構により、教育システムとして認証され、社会的認知を受けた。同時に平成18年度より予備的に活動が開始される、東北大学国際高等研究教育院における講義課目“応用医療薬学特論”として承認され、教育者、研究者育成の環境と継続性が整備された。</p>
<本拠点の特色>	<p>本COE拠点の研究教育にあっては、科学と実践技術の境界領域にある臨床研究、医薬開発の為の独創性の高い技術(スキルを含む)の創生と、それらを身につけた幅広い領域の人材を育成することを特色としている。本拠点は、新たに共通の目的を持ってプロジェクトを展開する性格のものではない。既存の、世界的に高い評価を得ている”拠点基盤研究“に各拠点メンバーを参画させることで、研究成果をもたらし、その成果をもとに基盤研究を実践教育の場とすることを特色としている。このことは、本拠点申請の段階で明らかにしている。</p>
<本拠点のCOEとしての重要性・発展性>	<p>本邦の臨床研究、医薬開発の人材は、絶対的に不足しており、従って医薬開発、臨床研究は欧米諸外国に遅れをとっている。医薬開発の国際競争力を保有するという観点から、この人材育成は、国家的課題であり緊急性を持った重要課題である。こうして育成された人材に対し、臨床研究、医薬開発という学術と実践の境界領域において、需要が大きく、この拠点で育成された人材の需要と発展性は、大いに期待し得る、と同時に、本事業の推進は、本邦の臨床研究、医薬開発の活性化をもたらそう。</p>
<本プログラム終了後に期待される研究・教育の成果>	<p>本拠点は、平成18年度にCOEの受け皿として設立が予定されている、東北大学国際高等研究教育院の一翼を担い、5年の経過の後に、東北大学臨床研究センターとしてAcademic Research Organizationの役割を担うであろう。これは本邦の臨床研究のための人材育成や臨床医薬開発の為の人材育成の中心的組織として活動を続け、本邦の産業の発展、新学術分野の展開をもたらそう。</p>
<本拠点における学術的・社会的意義等>	<p>本COE拠点から、臨床研究、薬剤開発の為の人材育成を目標とする本邦唯一の組織が構築される。その結果、高度な臨床研究、薬剤開発の為の研究者と同時に、極めて実践的な人材が育成される。これは本邦の国家戦略としての創薬、育薬に対し、計り知れない大きな社会的波及効果をもたらす。また基盤研究の推進により生活習慣病の病態解明、テーラーメイド医療がもたらされ、この学術的、社会的意義は極めて高いことが予想される。</p>

◇21世紀COEプログラム委員会における所見

(総括評価)

当初目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要と判断される。

(コメント)

本プログラムは、医療薬学、創薬科学、臨床医学、基礎医学、社会科学等多くの分野を包括融合し、医薬開発統括学術分野を創成し、人材を育成する拠点を形成するというユニークで重要な目標に取り組んでおり、一定の成果を挙げつつ推移している。

基礎研究、臨床研究ともに既存の拠点メンバーが各自のテーマで研究を進展させており、優れた成果を挙げている。一方で、医薬開発に能力を備えた人材の育成に向けて、Master of Clinical Science (COE—MCS) を立ち上げ、軌道に乗せた。これらの成果は本プログラムの目的からは優れたものであり高く評価される。この課程修了者が、今後どのように活躍するか注目される。

人材育成として、MCSの立ち上げは高く評価されるものの、医薬開発の実務者のみでなく研究課題に謳われているような医薬研究開発統括者の育成が切に望まれる。これに向けての人材養成プログラムを具体化し、実施することが求められる。

また、拠点が目標として掲げ、創成しようとする医薬開発統括学術分野とはどのようなものかを一層明確にすることも望まれる。